

市政会視察 研修報告

20番 下川 信 生

H30-3-28 (水)

地方議会研究会の講演会に参加する。今日の講師は、佐賀県
武雄市の市長として、改革を進める市民病院の民間移譲や 詩に鑑賞 ^{エッセイ} 下川が
図書館の複合施設として、来館者100万人を実現した楠渡啓祐氏です。
現在は、全国空き家バンク推進機構の理事長を務めている併し、今までの
経験を生かした講演活動を行っている。大へんゴーツな発想を持っている。

まず冒頭で言われたことは、議員は「広く浅く知識を持つこと」が「必要」
専門的に、職員と立ち太刀打ちできない。そして、コンパル、大学教授は、
実務経験が無いので、当てにならない。確かな事である。

市長に任せて、まず外へと出た。戸別に市民との対話に努めた。日常の仕事は
職員が全部やってくれる。図書館を複合施設として、夕夕を併設して、
9:00~21:00までオープンした。こまか大へんな活発になり、オープンしてからは、多忙
を極めた。その対応は、市長が行ったという。小学生にタブレットを全員に配る
こととした。おもしろいから、学力も上がったなどの話もあつた。もう1人のゲストは
別府市役所職員で、13年目を迎える池上明子氏。職員側から議員と触れ合い、
役所内の話が出た。決裁文章が公文書となり、Xも公文書に存在。そして「職員
はXを取らない」という。条例、規則、要項と支子なかつた。条例は、議会でも検討
されるが、要項は、職員が変える事が出来る。そこで議員は、要項を指摘して、改善
させる。議会である。一般質問で、要項を見せるというところから改正させること
が出来た。役所は、前例主義である。企画部門が之をいふ人という概念があるが
「企画馬鹿」と言つた。現場を知ることもある。

市政の改革というのは、トップのリーダーシップの発揮が大へん重要な事である。
この事は、わかっているが、引、は、こづく力、行動力を持つトップが重要な事だ。
議員は、いかに市民の声を聞いて、提言を、かりして、より良い市政が運営出来る
ことが大切な事である。

要望活動

衆議院議員 大貝正幸事務所と参議院議員 酒井康行事務所に出向き、話合い
の要望をお預けする。本日17時より参議院本会議におき、予備案が可決

する見込みであるという状況下中での時間を裂いての要望の提案であった。この中で、知立小学校の長寿化改良工事については全国的に多くの要望が寄せられており、予算獲得の爲には、毎月位の陳情が必要との教唆を受けた。日本遺産の認定を受けるには、保存、活用、今後のあり方を具体的に示すのが必要とのガイダンスを受けた。すいその主旨を幸当局に伝え報告した。

3-29(休) 本所防災館の研修体験

墨田区にある東京消防庁の防災館で、多くの災害体験をした。

このような施設があるのは、さすが東京である。東京近下地震などの災害体験をした。日頃より災害に対する備えを考ふ「場所」である。

地震体験、暴風雨体験、煙体験、消火体験、応急救護体験、などがある。地震、煙、消火、応急救護などは、地元での体験や研修も可能であるが、雨合羽を着用し、風雨の中での体験、また、アムールバスが、雨氷時の車からの脱出についての体験で、10mの水で水圧が加わるとどうしてドアが開かないかの体験に、ユニークな初体験であり貴重なものであった。

当知立市においても、地震や水害の災害が懸念される。水没するアムールバスには、道路の管理者は、充分に日頃より、管理の手順等とし、カリ確忍、事態に対処出来るように備える必要があると痛感した。この施設での体験時には、小学生もいっしょに体験をした。楽しみながらも一生懸命の姿に感銘を受けた。若いうちでの体験は、大へん重要であると感じた。

議員は、たに深く知識を持つ事には、同感である。地域のことではよくであるが、国政の動きや世界へ状況まで、アングラの高くして、情報をキャッチし、自分の糧として、自己研鑽に努め、自己の向上に努めることが大へん重要である。体験や見聞をする事の重要性「百聞は一見に如かず」の通りの視察であった。